「おじいちゃんのおじいちゃんの
おじいちゃんのおじいちゃん」★
長谷川義史/作
BL出版（Eハセガ）

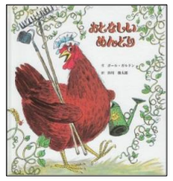
おじいちゃんのおじいちゃんはどんな人？
時代をさかのぼり、ぼくはおじいちゃんに会いに行く。歴代のおじいちゃんたちは、その時代の生活をぼくに見せながら、家族のつながりを教えてくれた。言葉と風景、探し絵も楽しめる、何度も発見のある1冊。

「としょかんライオン」★
ミシェル・ヌートセン/さく　ケビン・ホークス/え
岩崎書店（Eホクス）

ある日、一頭のライオンが図書館に現れます。皆びっくりしますが、館長のメリウェザーさんだけは別。「図書館のきまりを守れば、ライオンだって来てよいのです」だって！　子どもたちとおはなしを聞いたり、お手伝いをしたり、皆の人気者になったライオン。しかし、大声をだしてはいけないきまりをやぶってしまい…。

「へっこきあねさがよめにきて」●（日本）
大川悦生/文　太田大八/絵
ポプラ社（Eオオタ）

ある男のところにとついできた嫁は、とても働き者の良い娘。男も母親も大喜びですが、だんだん嫁の様子がおかしくなってきました。母親がわけを聞くと、嫁は屁（おなら）を我慢しているというのです。遠慮せずすればいいと言われ、思い切って屁をすると…
ぼん、ぼん、ぽが～ん！！　ユーモアあふれる日本の昔話です。



「おとなしいめんどり」●
ポール・ガルドン/作
童話館出版（Eガルドン）（イギリス）

むかし、ねこといぬとねずみの3匹と、おとなしいめんどりが小さな家に住んでいました。
3匹は寝てばかりだったので、うちの中の仕事をするのはいつもめんどりでした。ある日めんどりは小麦の種を見つけました。

「ふたごのもうふ」★
ヘウォン・ユン/さく
トランスビュー（Eユンヘ）

うりふたつの双子のわたしたちは仲良くなんでもわけっこしてきたの。
でも、5歳になって一枚の毛布にふたりで寝るのは、小さすぎてけんかになっちゃった。
はじめて自分だけの毛布をもつワクワクと、ひとりで寝るドキドキを、ほほえましく描いたおはなし。

「ロバのシルベスターとまほうの小石」★
ウィリアム・スタイグ/作
評論社（Eスタイ）

ある日、ロバのシルベスターは赤く光るきみょうな小石を拾いました。なんとそれは触って願い事を言うと叶えてくれる小石だったのです。
ところが、突然現れたライオンに驚いたシルベスターは、うっかり自分を岩に変えてしまいました。自分ではもとの姿に戻れなくなってしまったシルベスターの運命は？

「十二支のはじまり」●（日本）
岩崎京子/文　二俣英五郎/画
教育画劇（Eフタマ）

むかし、ある年の暮、神様は動物たちにおふれをだしました。「正月の朝、御殿に来たものから12番まで、順番に1年ずつ、その年の大将にする」
動物たちは自分こそいちばんのりだと大騒ぎです。
そこへ、いつ御殿に行くのかを忘れてしまったねこが、ねずみに聞きに来ましたが、ねずみはうその日にちを教えます。

「ふしぎなしろねずみ」●（韓国）
チャン　チョルムン/文
ユン　ミスク/絵
岩波書店（Eユンミ）

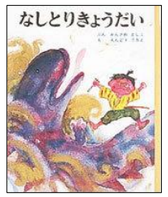
昼寝をしているおじいさんの鼻を、出たり入ったりしているしろねずみ。
やがておじいさんの体から抜け出したしろねずみは雨の中を出かけて行きます。あとをつけたおばあさんが見たものとは？　韓国の不思議な昔話。

「しゃっくりがいこつ」★
マージェリー・カイラー/作　S.D.シンドラー/絵
らんか社（Eシンド）

しゃっくりがとまらないがいこつ。
頑張ってとめようとしますがうまくいきません。なぜなら、がいこつの体はスカスカの骨！　息を止めてももれてしまうし、水を飲んでもこぼれてしまいます。その時、友達のオバケがいいことを思いつきました。しゃっくりを止める驚きの方法とは？

「さんまいのおふだ」●（日本）
水沢謙一/再話　梶山俊夫/画
福音館書店（Eカジヤ）

山へ花を探しに行き、道に迷ってしまったこぞうさん。すっかり夜もふけて困っていると、山のむこうに小さな家の灯りを見つけました。
その家に住んでいるおばばに一晩泊めてもらうことにしましたが、夜中に目を覚ますと「こぞうはうまそうだな」という声が…。



「なしとりきょうだい」●（日本）
かんざわとしこ/文　えんどうてるよ／絵
ポプラ社（Eエンド）

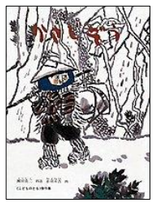
病気のお母さんのため、山へなしをとりに行くことにした三兄弟。最初は長男のたろうが、次に二男のじろうがでかけましたが、二人は沼の主に呑まれ、帰ってきませんでした。そこで末っ子のさぶろうが行くことになりました。「いけっちゃかさかさ、いくなっちゃかさかさ」という不思議な歌に導かれて歩いていくと…。

「パンのかけらとちいさなあくま」●
内田莉沙子/再話　堀内誠一/画
福音館書店（Eホリウ）（リトアニア）

ちいさなあくまは貧乏なきこりのパンを盗み、おおきなあくまたちにひどく叱られてしまいます。おわびにきこりの願いをきいて沼を麦畑にかえますが、意地悪な地主に横取りされてしまいました。ちいさなあくまは麦畑を取り戻すことができるのでしょうか？

「あかちゃんのゆりかご」★
レベッカ・ボンド/作
偕成社（Eボンド）

生まれてくる赤ちゃんのために、お父さんがゆりかごを作りました。おじいちゃんは色をつけ、おばあちゃんはキルトを縫いました。家族みんなが心をこめてひとつのゆりかごを完成させます。赤ちゃんの誕生を心待ちにしている家族の様子や表情が可愛らしく描かれた絵本。



「かさじぞう」●（日本）
瀬田貞二/再話　赤羽末吉/絵
福音館書店（Eアカバ）

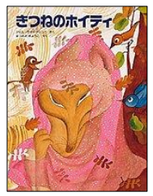
昔、貧乏なおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは正月の餅を買うために、町へ笠を売りに行きましたが全く売れません。がっかりして帰る途中、雪の中に立つ地蔵さまに持っていた笠を全てかぶせてあげました。すると明け方、地蔵さまたちのかけ声がして…。心優しいおじいさんに起こった、大晦日のお話。

「ラン　パン　パン」●（インド）
マギー・ダフ/さいわ　ホセ・アルエゴ/え
評論社（Eアルエ）

“ランパンパン”と太鼓をたたいて行進するクロドリ。王さまに連れて行かれてしまった奥さんを奪いかえすため、戦いの準備をして宮殿へ向かっています。途中、ネコや木の枝、川、アリが仲間になり、クロドリの耳の中におさまって一緒に宮殿に乗りこみます。強い力を持つ王さまに知恵で勝負する勇ましいおはなしです。

「こびととくつや」●（グリム）
グリム/原作
カトリーン・ブラント/絵
平凡社（Eブラン）

貧乏でも正直者の靴屋の夫婦がいました。ある夜、最後の一足分の革を切って寝ると、翌朝立派な靴に仕上がっていました。不思議に思った夫婦が隠れて様子を見ていると、そこに現れたのは二人のこびとでした。



「きつねのホイティ」★
シビル・ウェッタシンハ/さく
福音館書店（Eウエタ）

くいしんぼうのキツネ・ホイティは人間になりすまし夕食を食べ歩きます。実はおかみさんたちは騙されたふりをしていたのですが、調子にのったホイティの悪口の歌を聞いてさあ大変！　おかみさんたちが考えたホイティへの仕返しとは？　愉快なスリランカの絵本。

「うりこひめ」●（日本）
松谷みよ子/作　つかさおさむ/絵
童心社（Eツカサ）

瓜（うり）から生まれたうりこひめは、子どものいないじいとばあに育てられ、美しい娘に成長しました。長者の嫁に行くことが決まったある日、ひとりで留守番をしていると、家にあまんじゃくというおにが現れ、外に連れ出されてしまいます。まんまとうりこひめと入れ替わったあまんじゃくは…。

「天の火をぬすんだウサギ」●（北米）
ジョアンナ・トゥロートン/さく
評論社（Eトウロ）

昔、火は天にだけあり、地上の動物たちは寒さに震えていました。そこでかしこいウサギは、天から火を盗んできます。火はウサギからいろいろな動物にリレーされて地上に運ばれました。
リスのしっぽやアライグマの体の模様が、どうして今の形になったのかなどが描かれた、北米インディアンに伝わるおはなし。

「むしをたべるくさ」◆
渡邉弘晴/写真
伊地知英信/文
ポプラ社（B47ワタナ）

ネバネバした丸い液体でハエやトンボを捕まえるモウセンゴケ。つぼに落ちた獲物が引き返せない形をしたウツボカズラ。閉じた葉で栄養を吸い取るハエトリグサ。虫を食べて生きる植物たちの世界をのぞいてみましょう。

「からだのなかで
ドゥンドゥンドゥン」◆
木坂涼/ぶん　あべ弘士/え
福音館書店（Eｱﾍﾞﾋ）

人間も、犬も、猫も、とかげも、鳥も、クジラだって、生きているものはみんな、命の音を持っています。心臓に耳をあてれば聞こえてくるよ、ドゥン、ドゥン、ドゥン。自然のふしぎをわかりやすくかいた「ちいさなかがくのとも」シリーズの絵本です。

「ちきゅうのうえで」◆
沢田としき/作
教育画劇（Eｻﾜﾀﾞ）

大昔、海の中で生まれた小さな命は、長い時間をかけて変化し、さまざまな動物になっていった。陸へ出る生き物も現れ、それにあわせて体も変わっていった。やがて、二本の足で歩き手を使う「人」の祖先が生まれた…。いのちのたび、生命の進化の絵本。

「おすしのさかな」◆
ひさかたチャイルド（B59ｵｽｼ）

みんなの大好きなお寿司。その材料である魚は、お皿に乗る前はどんな姿をしていたのかな？　広い海でスイスイ泳ぐ様子から、釣り上げられ、職人さんの手でお寿司になるまでを、写真でわかりやすく紹介。おいしいお寿司について楽しく学べる一冊です。へいおまち！

「おかしなゆきふしぎなこおり」◆
片平孝/写真・文
ポプラ社（B45ｶﾀﾋ）

雪や氷は降り方や場所、気温によって色々な形に変身します。はげしく降る雪は、高く積もったコックさんの帽子。波しぶきが作る、氷のシャンデリア。奇妙な形に育った樹氷、雪と氷のおばけ、アイスモンスター！
自然の神秘を美しく切り取った写真絵本です。

「おそらにはてはあるの？」◆
佐治晴夫/文　井沢洋二/絵
玉川大学出版部（Eｲｻﾞﾜ）

お空はどこまでも続いているの？
それともどこかに終わりはあるのかな？
もしかしたら、夜空いっぱいのお星さまにヒントがあるかもしれません。
素朴な宇宙の疑問に、物理学者がやさしい言葉で答えた色鮮やかな知識絵本。

《その他おすすめの本》

「じごくのそうべえ」★
田島征彦/作
童心社　（Eﾀｼﾞﾏ）

「とんことり」★
筒井頼子/さく　林明子/え
福音館書店　（Eﾊﾔｼ）

「ずーっとずっとだいすきだよ」★
ﾊﾝｽ･ｳｨﾙﾍﾙﾑ/えとぶん
評論社　（Eﾋﾞﾙﾍ）

「ニャーロットのおさんぽ」★
ﾊﾟﾒﾗ･ｱﾚﾝ/作・絵
徳間書店　（Eｱﾚﾝ）

「したきりすずめ」（日本）●
松谷みよ子/作　片山健/絵
童心社　（Eｶﾀﾔ）

「ねずみのすもう」（日本）●
樋口淳/ぶん　二俣英五郎/絵
ほるぷ出版　（Eﾌﾀﾏ）

「ふしぎなボジャビのき」（アフリカ）●
ﾀﾞｲｱﾝ･ﾎﾌﾏｲﾔｰ/再話　ﾋﾟｰﾄ･ﾌﾛﾌﾞﾗｰ/絵
光村教育出版　（Eﾌﾛﾌﾞ）

「おだんごぱん」（ロシア）●
瀬田貞二/訳　脇田和/画
福音館書店　（Eﾜｷﾀ）

「はなのあなのはなし」◆
やぎゅうげんいちろう/作
福音館書店　（Eﾔｷﾞｭ）

「なく虫ずかん」◆
大野正男/文　松岡達英/絵
福音館書店　（B48ｵｵﾉ）

「まほうのコップ」◆
藤田千枝/原案　河島敏生/写真
福音館書店（Eｶﾜｼ）

平成28年6月
編集：福島市子どもライブラリー(TEL526-4200)
発行：福島市立図書館(TEL531-6551)

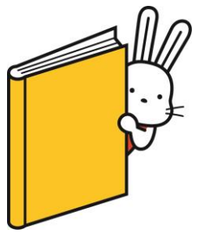
【福島市立図書館】
〇開館時間　月～土 ：午前9時30分～午後7時
日･祝日：午前9時30分～午後5時30分
〇休館日　火曜日
館内整理日

【子どもライブラリー】
〇開館時間　毎日：午前9時30分～午後7時
〇休館日　火曜日

学習センターについては、
各館にお問合せください。

え　ほ　ん

～4・5歳児のためのブックリスト～



はじめに

4・5歳の頃は「読み聞かせの黄金期」だと言われています。様々なことを吸収しやすいこの時期、良い絵本との出会いは子どもの好奇心を満たすだけでなく、将来まで続く心の栄養となってくれます。

このリストでは、長く読み継がれているものから新しいものまで、図書館員が選んだ41冊を紹介しています。
読み聞かせはもちろん、親子で本を選ぶときの参考にぜひご活用ください。

絵本についているマークについて
★･･･ものがたり
●･･･むかしばなし
◆･･･知識の本

福島市立図書館

「ぐるんぱのようちえん」★
西内ミナミ/文
堀内誠一/絵
福音館書店（Eﾎﾘｳ）

ぐるんぱはひとりぼっちのきたないぞう。仲間に言われ働きに出ましたが、ビスケット屋、お皿作り、靴屋など、どの仕事をしても失敗ばかり。ところが子どもたちと遊んでみると…。ぐるんぱが自分にぴったりの居場所を見つけるまでのおはなし。

「くいしんぼうのはなこさん」★
いしいももこ/ぶん
なかたにちよこ/え
福音館書店（Eﾅｶﾀ）

こうしのはなこは、わがままで食いしん坊。山の牧場でも誰よりも大きくて強いので、いつも威張っています。
ある日、お芋やかぼちゃを食べ過ぎたはなこは、体がぱんぱんにふくらんでしまい大騒ぎになりました。

「むしむしでんしゃ」★
内田麟太郎/文
西村繁男/絵
童心社（Eﾆｼﾑ）

むしむしでんしゃが発車します。ののたんののたん。ののたんののたん。
乗っているのは、チョウにバッタ、よわむし、なきむし?!
さあ、むしむしでんしゃはどこにむかうのかな。
虫好きにも電車好きにもおすすめです。

「ぎょうざつくったの」★
きむらよしお/さく
福音館書店（Eｷﾑﾗ）

留守番をすることになったウナちゃんは、友だちを呼んでぎょうざ作りに挑戦します。順調に進んでいたはずが、「まずそう」の一言で仲間割れ。美味しいぎょうざはできたのでしょうか。豪快なタッチで子どものあふれる感情を描いた絵本。

「つきよのかいじゅう」★
長新太/さく
佼成出版社（Eﾁｮｳ）

その湖には昔から怪獣がいると言われていた。男は10年ものあいだ怪獣を待っていた。
いったいどんな姿をしているのか、男の想像は膨らんでいく。驚きのその正体とは？
親子で楽しめるナンセンス絵本です。